## いわて防災学教室 災害から学び、災害に備える



## 岩手の火山(4) 活きている火山とは?

岩手大学教育学部社会科教育科教授

「活きている火山(活火山)」は、現在噴火活動 を続けている火山、活発な噴気活動がある火山、お よび将来噴火する可能性のある火山です。ところで、 火山が将来噴火するかどうか、これをどのように判 定すればよいのでしょうか? 考えてみるとこれは 難しい問題です。

これと同等の問題に「活きている断層(活断層)」 があります。将来変位して(ずれて)地震動(ゆれ) を引き起こす断層、これが活断層ですが、断層が将 来変位する可能性があるかどのように判定すればよ いのでしょうか?

将来火山が噴火する、あるいは断層が変位する可 能性があるか判定するためには、便宜的ではあって も―そして願わくは自然の摂理にかなった―何らか の判定基準を設定することが必要です。判定基準は、 火山や断層の過去の活動履歴をもとに設定するほか なく、これらの自然現象に対する人間側の認識が反 映されることになります。ここでは日本における火 山の見方の変遷を紹介しましょう。

明治時代の1876年頃、日本では「活火山」を噴火 している火山の意味で使用し、噴火記録があるが噴 火活動を休止している火山を「休火山」、噴火記録の ない火山を「死火山」と分類していました。1968年、 気象庁は、噴火記録のある火山、過去10世紀程度ま での間に噴火したことが科学的に立証されている火 山、火山性異常(噴気活発化、地震群発等)が発生 している火山を活火山と定義し、66火山(北方領土 を除く)をリスト化しました。その後、北方領土を 含めて77火山としました。

この当時、長野・岐阜県境の御嶽山は、山頂の南 側の地獄谷に噴気があることから「活火山」にされ ていましたが、噴火することなど誰も考えておらず、 概して「死火山」と考えられていました。したがっ て気象庁の観測点もありませんでした。ところが19 79年10月、地獄谷から水蒸気噴火したのです。噴火 予知関係者に衝撃が走りました。この噴火によって 「休火山」、「死火山」という分類は無意味であり、 誤解を生じやすいと考えられてこれらの用語は廃止 されたのです。

1979年御嶽山噴火と翌1980年の米国・セントヘレ ンズ火山噴火を受けて、日本では、潜在的な爆発力 を有する火山を対象とした研究・観測の強化が必要 と考えられるようになりました。この時期の1981年、 シムキン(T.Simkin)氏らによる「世界の火山」が 米国・スミソニアン協会から出版され、過去1万年 間に噴火した火山を「活火山」と定義して、世界の 1343火山が記載されたのです=図=。

1991年、気象庁は、過去およそ2千年以内に噴火 した火山および現在活発な噴気活動がある火山を 「活火山」として83火山をあげています。その気象 庁も1995年には、将来噴火する可能性のある火山の 範囲を定めることは、学術的な見地からは難しい問 題であるとしました。そして2003年、気象庁長官の 私的諮問機関である火山噴火予知連絡会は、数千年 間活動を休止した後に活動を再開した火山も知ら れ、過去1万年間の噴火履歴で活火山と定義するの が適当であるとの認識が国際的にも一般的になって いることから、「活火山」は、概ね過去1万年以内に 噴火した火山および現在活発な噴気活動のある火山 と定義を変更しました。1981年「世界の火山」の出 版から22年後のことです。

2005年、気象庁は、噴火の可能性がある火山はす べて「活火山」とし、それ以外の火山を「その他の 火山」としました。こうして2015年には110火山が

